

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4710610538		
法人名	医療法人 祐真会		
事業所名	グループホーム更竹		
所在地	沖縄県宮古島市平良字東仲宗根添1898番地の7		
自己評価作成日	平成30年10月18日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&ijyosyoCd=4710610538-00&PrefCd=47&VersionCd=022
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ		
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレスト西205		
訪問調査日	平成30年11月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所が医療法人の敷地内にあり、入居者の健康管理や急変時に医師・看護師との連携が取れ、迅速な対応が可能である。同法人主催の大運動会・納涼祭・ハーリー見学や敬老会など、多彩な行事に参加し、地域との交流が盛んである。
法人内に温泉施設もあり、利用者の希望により、温泉入浴が楽しめる環境がある。
理念に沿ったケアを目標に利用者の安心・安全な生活づくりに重点的に取り組み、実施している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、開設18年になる事業所で、医療法人の広大な敷地内にある建物の3階に設置され、主治医や病棟の看護師との医療連携が構築され、利用者の安心・安全な暮らしを支え、利用者・家族等との信頼関係が築かれている。職員は、利用者を人生の先輩として尊重し、常に利用者とのコミュニケーションを図りながら自分の親や家族のように大切な存在として支援するよう心がけ、利用者本位のケアに努めている。「笑顔の少ない利用者を笑わせたい。」という1年の目標を掲げ、利用者との関係づくりに励んでいる職員をはじめ、利用者の思いや意向、残存能力を把握して、利用者が過ごしたいように支援している。担当職員が利用者1人ひとりについて、移動・食事・入浴・排泄等の「介護業務手順書」を作成して職員間で共有し、それに沿った支援を実践している。当事業所に入居してから心身ともに徐々に落ち着き、要介護度が改善していく利用者の変わりように、家族や在宅時に関わっていた包括支援センター職員が驚いたという事例もある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 1月28日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの見やすい場所に掲示しており、職員は随時 理念を確認し、業務に取り組んでいる。理念に沿ったケアを行っているのか問題点や疑問点等を適宜、管理者、職員間で確認し、話し合いを持つ場を設けている。	理念は「利用者の尊厳や能力を保てる関係づくり」をはじめ、安全・安心な生活づくり、地域や家族等と触れ合える関係づくりを掲げている。職員は、利用者とのコミュニケーションを大切にしたいかを確認し、一人ひとりの意思やペースを尊重した支援に努めている。職員は、日常のケアや申し送り、月1回のミーティングを通して理念の共有と実践を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	医療法人主催の運動会、納涼祭、ハーリー見学等多彩な行事に参加している。同法人の託児所の子供たちも訪れ、利用者との交流を図っている。	利用者は出身地の敬老会やハーリー、マスターア等の地域の伝統行事に参加し、毎年のトライアスロン大会ではほぼ全員がカチャーシーを踊り、選手を応援している。農家の方から、直接厨房への野菜の差し入れがあり、水道工事の職員からも果物等の差し入れがある。民生委員等地域の方を招いて見学会を開催し、グループホームや認知症ケア等について紹介する試みを実施している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生員をはじめ地域の方を招き、介護保険法や認知症ケアの実態、料金システムを説明する見学会を開催している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政担当者、地域包括センター担当、家族会代表者、法人総務部長、民生員、入居者代表、ご家族も参加し運営推進会議を開催している。運営推進会議で得た情報や意見は、サービス向上に活かしている。	運営推進会議は、利用者や利用者家族、行政職員、地域代表、知見者、管理者と職員等が参加し、2カ月に1回開催してきたが、現時点では4回の開催となっている。会議では、運営状況や行事・研修の実施状況、事故・ヒヤリハット、外部評価結果の報告等がなされ、委員との意見交換を行い、議事録も整備されている。議事録の公表については、確認ができなかった。	運営推進会議の年6回の定期的な開催、及び議事録の公表が望まれる。

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 1月28日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所高齢者支援課担当者や地域包括支援センター担当者に、ホームの実情を報告し指示を仰ぎ協力関係に努めている。	市の高齢者支援課とは日常的に情報交換を行い、見学や入居の相談等については、行政と市のグループホーム連絡会が連携して対応するしくみが確立している。行政から研修等の案内があり、運営推進会議では市の取り組みの紹介や助言等を受けている。現在直面している事業所の課題等については、行政と連絡を取り合い、課題解決に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄關の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアの方針を示し、職員にも身体拘束や行動の制限を行わない支援に取り組んでいる。	職員は「身体拘束排除マニュアル」について勉強会を開き、身体拘束をしないケアについて理解と共有を図っている。特に言葉遣いに注意した声かけや見守りを工夫しながら身体拘束を行わない支援について確認し合っている。法人全体で身体拘束排除委員会を3か月に1回開催することが事業所の年間行事に明記されているが、身体的拘束等の適正化のための指針や委員会の定期的な開催、会議録等は確認できなかった。	身体的拘束等の適正化のための指針の整備、及び定期的な委員会の開催、会議録の整備に取り組み、職員の共有を図ることが望まれる。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は、虐待防止に関する研修を受け、ミーティングで虐待が起きないように話し合っている。	職員は、ミーティング等で虐待防止について学ぶ機会を持ち、不適切なケアを行わないよう意識して業務に臨んでいる。利用者ができることを奪わないように利用者のペースを尊重し、言葉による抑制等に気をつけている。保健師によるストレスチェックを実施し、職員の疲労やストレスが利用者の支援に影響を及ぼさないようにしている。虐待防止についての継続的な研修に期待したい。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社会福祉協議会が主催する研修に参加し、地域包括センターとも連携し必要性を協議し活用できるよう努めている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 1月28日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に、本人や家族にホームを見学して頂き、ホームでの生活、医療機関との連携体制や利用料金などについて詳しく説明し同意を得て理解、納得を図っている。	/	
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からは日頃のケアの中で聞くようにしている。家族からは、面会時や家族会、運営推進会議等で聞く機会を設け運営に反映している。	利用者の思いや要望は、日々の会話を通して聞くようにし、家族の意見や要望は、面会時や運営推進会議、家族会等を聞く機会としている。「ドライブに行きたい」、「漬け物作りがしたい」等の要望を受け、午前午後に分けてのドライブの実施、大根やニンニクの漬け物作り等支援している。「美容室に行きたい」との要望には、家族の協力を得ながら対応に努め、利用者に合った車イスの整備については、法人に依頼している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員がストレスをためないように職員相互が気兼ねなく話し合うコミュニケーションの場を設けている。尚、保健師によるストレスチェック検査も実施している。	日々の業務や申し送りを通して職員の意見や要望を聞き、古くなった椅子の修繕等を法人のリーダー会議に提出し、即対応してもらうなど業務に反映させている。「早番の仕事内容の一部を日勤の仕事に組み込んでほしい」という要望や食事の際の車イスから椅子への移乗についての提案等を検討し、業務改善に繋げている。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者も頻りに現場に來られ、職員の業務や悩みを把握する努力をしている。職員が向上心を持って働ける環境づくりに努めている。	労働条件として、有給休暇の取得や資格取得後の手当支給等が整備されている。職員には制服支給がある。法人内研修や外部研修は、シフトに応じ、日時を調整して参加できるようにし、参加した職員が職員勉強会で伝達している。全職員が健康診断を実施しており、夜勤者は年2回の健康診断を受け、感染症の予防に努めている。法人代表が時々来訪し、利用者との談笑や職員の勤務状況の把握に努めている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 1月28日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修にも積極的に参加されている。法人内の研修にも参加されている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホーム職員との情報交換や他施設を訪問し互いのケアの質の向上について話し合う機会を持っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前、または、本人のバックグラウンドの把握に努めサービス導入に活かしている。また、サービスを開始し日常的に接する中で、意識的に本人が求めていることを引き出しながら関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの利用について相談があった場合は、家族に会って家族が求めている事、困っている事を十分に聞き入れ、相談を受け、信頼関係づくりに努めている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 1月28日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談受付時、家族の事情や要望をもとに、その時点で何が必要か、本人にとってどのように暮らすのが最良なのか利用開始している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いが協働しながら穏やかな生活ができる場面を心がけている。昔の生活の知恵など、自宅での暮らしぶりを聞き入れ、教えていただきながら家族と同じ思いで、支援し信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状況を見極めながら外出、外泊で家族と一緒に過ごすことを勧めたり、行事等に家族と一緒に参加される環境づくりに努め、良い環境を築いている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでも大切にしてきた馴染みの場、行事等本人も参加できるよう家族との連携をとって、知人、友人の人達にも、遊びに来ていただくよう声かけしている。	馴染みの人や場については、契約時のアセスメントや家族からの情報をもとに把握している。利用者からは若い頃の話や仕事の話、家庭の話等を聞き出すように努め、馴染みの美容師の来訪や出身地の行事への参加、懐かしい場所へのドライブ等に繋いでいる。友人や地域の人々の訪問も多く、隣人が病院受診の帰りに立ち寄り、マンゴの差し入れや漬物談議をすることもある。職員は、利用者のこれまでの馴染みの関係の継続支援に努めている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 1月28日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日のレクリエーションや談話できるスペースを利用して1人1人が楽しく過ごせる場面を工夫し支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された利用者でも、定期的に来所され家族との連携も継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望や意向は、日頃の会話を通して把握に努め支援に繋げている。	利用者の思いや意向については、日頃のケアの中で会話や洗濯物干し、トランプ等のゲームを通して、把握に努めている。「売店に行きたい」、「白髪を染めたい」、「発語練習をしたいので、ひらがなの50音表を作って居室の壁に貼ってほしい」等の一人ひとりの希望を聞き出し、利用者の暮らしやすさや状態改善に努めている。「若い頃のように毎日化粧して綺麗になりたい」という利用者には、化粧道具や鏡等を整備し、「犬小屋まで散歩したい」等の要望にも対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴に関する情報を本人や家族から聞き入れ、本人の背景を知り得た上、ケアに活かしている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 1月28日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝の挨拶時に1人1人に何がしたいか確認し、本人の希望に沿うケアに努めている。また、食事量や排泄の時間、バイタルチェック、観察等で心身状態把握に努めている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	適宜、本人や家族、主治医、職員同席のサービス担当者会議を開催し、要望、意見、問題点を聞き、現状に適した介護計画を作成できるように取り組んでいる。	サービス担当者会議には、利用者や家族、担当職員、必要に応じて主治医等が参加し、利用者の状態や家族等の意見・要望を把握しながら、介護計画の作成に反映させている。介護計画は長期目標を1年、短期目標を半年とし、介護計画をもとに担当職員が利用者個々の移動・食事・入浴・排泄介助等の「介護業務手順書」を作成して日々の支援に活用している。更新手続き時の定期的見直しや状態変化時の随時の見直しが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々別に記録ファイルを用意しており、日常の暮らしの様子や排泄状況、食事、水分チェック等、身体状況を記録して介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状態変化時は速やかに家族へ電話で報告し相談、面会を促し医療との連携を図っている。また、意見箱を随時、設置しており、運営推進会議や家族会等でも本人や家族のニーズを聞き出し把握に努めている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 1月28日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>家族会を結成し、また地域民生員との意見や情報交換を行い、地域資源の把握に努め、入居者の安心、安全な生活を送れるように支援している。</p>		
30	(13)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>法人内にある病院をかかりつけ医とし、定期的には職員付き添いで受診している。状態変化時も速やかに主治医へ報告し指示を仰いでいる。他科受診時は、家族、または管理者付き添いで受診し支援している。</p>	<p>利用者のかかりつけ医は法人病院の2名の医師である。月1回の受診と年1回の健診時は職員が通院介助している。他科受診は基本的に家族対応で、家族に利用者の状態をメモした用紙を持たせ、受診の結果は医師からの文書を受けている。夜間の利用者の急変時には法人病棟の当番看護師が対応している。</p>	
31		<p>○看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>入所者の状態変化時や定期受診日は外来看護師へ報告、相談している。夜間帯の発熱等については法人内の対応看護師に現状報告し適切な受診が受けられるように支援している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>手術が必要な時以外は同法人の病院に入院し、早期退院に向けて情報交換や相談を行っている。</p>		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 1月28日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に本人、または家族に重度化した場合や終末期における体制を説明し、意向や希望を確認している。また定期的に意思確認も行っている。	重度化した場合、加算は取っていないが、「家族と相談して、希望すれば看取りも考える」という方針である。家族の意向を汲み、ミーティングで「職員はどんなケアをすればよいか」を話し合い、「本人の好きな音楽を聞かせる」や「今日は天気良よ、おはよう、と話しかけよう」等の意見が出て取り組みを開始している。最終的に家族は病院を希望し、実績はまだない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は、虐待防止に関する研修を受け、ミーティングで虐待が起きないように話し合っている。法人内で定期的開催される勉強会に参加し、急変時や事故発生時に備えている。	/	/
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、非難訓練、消火訓練を年2回実施している。同法人職員も協力し参加されている。	災害対策は、消防署に届け出て、昼夜を想定した年2回の避難誘導や消火等の訓練を実施している。昼間想定訓練時は、法人病院の職員が応援隊として参加し、今年度、利用者全員の緊急連絡シートを作成している。スプリンクラーや自動火災通報装置等を整備し、停電時は、上階の透析室に発電機があるので、冷蔵庫と電気は利用できる状況にある。現在、食事は法人の厨房で調理しており、食糧の備蓄は法人で管理している。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入所者一人ひとりに対して丁寧な言葉で接し、プライバシーについても職員心得にて提示されており、職員に周知徹底している。	職員は、利用者の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないように、丁寧な言葉づかいに努めている。移乗時は、言葉をかけてから立ってもらい、向き直ってゆっくりと座ってもらうよう支援している。職員は、利用者が自分のできるように、待つケアを心がけ、利用者が一人であることがないように寄り添い、スキンシップするケアに努めている。排泄支援時は、トイレのドアを閉めているが、2カ所のアコーディオンカーテンが破損している。	利用者を尊重し、プライバシーを確保するため、アコーディオンカーテンが破損している2カ所についてはドア等の改善が望まれる。

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 1月28日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者本人の希望が叶うように支援している。若い頃のように毎日化粧して綺麗になりたい等の希望もあり、化粧道具、鏡等を準備しケアに活かしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は朝の挨拶時利用者一人ひとりにどのように過ごしたいか確認し希望に沿う支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時は本人希望を聞くようにしている。爪切り日を決めて切っているが本人の希望があれば随時対応している。外出、行事等の着替えは職員と一緒に考えて化粧やおしゃれを支援している。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	同法人の管理栄養士の献立により法人厨房で調理している。入居者の好みの味付けや好みの硬さ、形状を一人ひとり工夫している。	食事は、法人の厨房で調理をし、盛りつけされて届き、利用者は全員椅子に座って食べている。半数の利用者は、おしぼりたたみや食後の湯飲みとコップ洗いに携わっている。3カ月に1回は、ヒラヤーチーやケーキ等のおやつをホットプレートで作っており、利用者が洗う、切る、焼く作業を行っている。法人の栄養士も巻き込んで、鍋料理に挑戦するときは、外来病院へのおすそ分けもしている。職員は持参した弁当を利用者と一緒に食べている。	利用者と職員が同じ食事を一緒に食べることの大切さを全職員で確認し、職員も利用者と同じ食事を摂ることが望まれる。

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 1月28日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分補給量を毎日記録している。水分摂取困難入居者に関しては、管理栄養士と相談しイオンゼリーを作り摂取している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、洗面所に職員付き添いで食後の口腔ケアを行っている。口腔ケア困難な利用者は洗口液にてケアを行う。就寝前には入れ歯洗浄剤で洗浄している。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを24時間チェックし、把握に努め、日中、夜間トイレ誘導を行っている。	昼間は、全員トイレでの排泄を支援している。夜間は、自立が2人、リハビリパンツやバット等を利用したトイレでの排泄を支援している利用者が5人、排泄パターンを把握して3~4時間おきに介助している利用者が1人である。便秘への対策として、お茶や牛乳、コーヒー等の水分を多く摂取してもらい、体操と水分補給で自然排便できるように支援し、薬による対応もしている。2カ所のトイレはアコーディオンカーテンが破損している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	午前中のラジオ体操、リズム体操、またレクリエーション等で適度の運動や水分補給を促し、自然排便が出来るように取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 1月28日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は毎日日本人の意思確認し入浴している。同法人の外来に温泉大浴場があり希望者は浴槽にて入浴できるよう支援している。	入浴は、シャワーの個浴で、週3回を基本とし、入浴日以外でも利用者の希望に応じている。個人用のシャンプーや洗顔石鹸、ボディークリームを使う利用者や入浴後に化粧する利用者もいる。爪切りは日曜日と決めているが、本人が希望したら入浴後に切っている。入浴を拒否する利用者に、声かけと待つケアを継続し、一人での入浴の意思を見逃さずに声かけした結果、見守りにより一人で入浴するようになった利用者がある。更衣室の洗剤等が利用者の手の届く位置にあり、早期の対策に期待したい。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に軽体操やレクリエーション、散歩等の活動等の活動、やかんでは居室でゆっくりラジオを聴いたり、穏やかに安心して就寝できるように支援している。		
47	(20)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋のコピーや薬剤説明書、内服管理表ファイルに整理し、職員は利用者個々の薬の目的を正しく知り服薬できるように支援している。	薬は、利用者が入ってこない部屋で個別に管理され、処方箋のコピーや薬剤説明書とともに受診時に処方される薬は、その日の夜勤者が仕分けしている。全員、薬の服用は1日1回、昼食後で、日々の薬は前日の夜勤者がセットし、朝、日勤者が確認して服用させている。利用者の状況の変化等についてはかかりつけ医に報告し、薬の変更は電話で家族に知らせている。1年間で誤薬はない。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物やタオルたたみ、居室掃除や整理整頓を協働し、漬物、天ぷら焼きやカラオケ大会等を行い、一人ひとりの楽しみ事を見つけ、定期的にドライブにも出掛け、気分転換を図っている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 1月28日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日光浴をかねて散歩、法人で主催されている父の日や母の日のドライブ、ハーリー、浜下り等行事に参加されて楽しみの場を作っている。また出身地元の敬老会や十六日祭等の外出を支援している。	職員は毎日、利用者全員の散歩を支援している。利用者は、夏の晴れた日は麦わら帽子をかぶり、法人が飼っている50~60匹の犬を見に行き、雨の日は建物内の長い廊下を往復している。気分転換に、2グループに分けて、車椅子の利用者も全員ドライブをして、ソバを食べることもある。地域のハーリー見学で、伝統の漁船からの魚まきを見て、利用者から「魚が空から飛んできた」との報告があった。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理のできる利用者には、ご家族よりおこづかいを預かり、外出した際に、好きなものを買う物できる体制をとっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの手紙や電話を歓迎していて利用者も自由にしようできるようにしている。ホーム側より島外にいる子供たちに電話し本人様と談話できる支援をしている。		
52	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広々とした共用の空間はバリアフリーでくつろぎの場である。居室では、家具の配置、家族の写真や絵画を飾り、居心地の良い空間作りをしている。	共用空間は毎朝換気し、上の階まで吹き抜けになっていて広さを感じられる。利用者は、日めくりの大きなカレンダーで、毎日、年月日を確認している。毎月の行事の写真や利用者職員で作成した葡萄や桜等の壁絵の作品が展示されている。トイレは大きな字で表示され、浴室は暖簾をかけてわかりやすくしている。利用者は日中、居室から出て、居間で談笑や活動をしている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 1月28日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール中央にソファースーツを配置しており、安心してひとりや数人で過ごせる場所として、また家族面会時も居心地よく過ぎセル空間を提供している。		
54	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談し、馴染みの物や私物等を持ち込んでおり、居心地良く安心して過ごせるように工夫している。	居室の掃除や整理整頓は職員が担当し、寝具は日曜日に替えている。利用者は、ソファやラジカセ、本、時計、籐家具、人形などを持ち込み、絵や家族と一緒にの写真も飾られている。ベッドサイドには職員が手作りした杖置きがつけられている。人形(8体)を持ち込み、子どものように名前をつけて2体ずつ布団に寝かせ、水も飲ませている利用者がいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行器利用者には居室扉を開放し自由に移動できるようにしている。またトイレも2箇所あり、分かりやすく貼り紙している。		